

JUN 2017

障壁をこえて～社会福祉士への期待

ソーシャルワークの力でセーフティネットを

猪飼周平

一橋大学大学院社会学研究科

email: s.ikai@r.hit-u.ac.jp

url: <http://ikai.soc.hit-u.ac.jp/>

声なき声に耳を傾けることはできたか

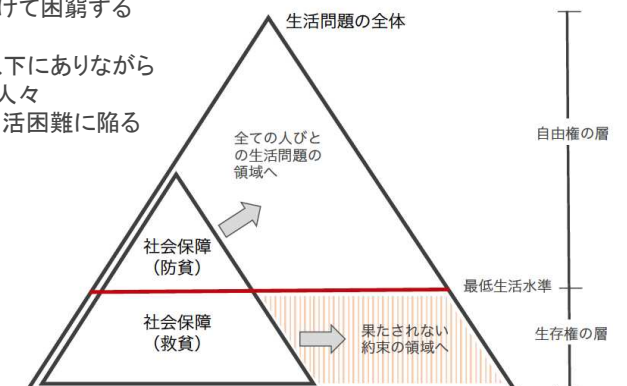
安保関連法の経験

共生社会論の背景として

1) 戦後70年間を通じてセーフティネットを張ることに失敗

戦後70年余にわたって生活保障の充実を目指して努力がなされてきたが、セーフティネットを張ることに失敗

- ① 制度の狭間をすり抜けて困窮する人々
- ② ナショナルミニマム以下にありながら支援を受けられない人々
- ③ 非経済的な要因で生活困難に陥る人々



セーフティネットが失敗した理由

直接の理由はソーシャルワークが弱かったこと

支援の作法の問題

- 社会保障が機能的に限局化せざるをえなかった主要な理由は、財政的境界ではなく、社会保障が依拠する支援の作法(社会保障モデル)にある
- これまでの社会保障の延長線上に生活保障を充実させてゆくことは不可能。
- 社会保障の限界を突破する作法としての生活モデル

憲法第25条の生存権が孕む問題

- そもそも結果を保障することができないためにプログラム規定的になってしまう(功利主義に反する)
- ある／ないという二元論的な「権利」概念と実現可能な保障との間に乖離がある
- ナショナルミニマム(最低生活水準)という概念が生活問題の構造に適合していない
- ナショナルミニマムによって社会が分断され生存権保障への抵抗が増大する

国家が弱いことに起因する問題

- 国家による個人権の擁護が弱いために、生存権保障から一層遠ざかる
- 生活保障について共同体への依存が強まり、共同体の弊害としてのマイノリティ集団の排除が強化される

2) 地域包括ケアも社会的浸透に失敗

政策目的の喪失

1. ケアの効率化による高齢化対策
2. ケア需要の増大に対応する資源整備
3. 当事者の生活的価値の実現

これらが混ざりあい政策目的の焦点が存在していない政策
高齢化対策ではなく、単なる高齢者を対象とした政策へ

- 自治体の熱意を調達できない
- 施策が依るべき準拠点が存在しない
- 高齢化対策がカムフラージュされる

社会的ニーズの捕捉に失敗

介護保健と比較してみると歴然としている

すべての人びとにとってのニーズの存在を提示してみせなければならなかった

3) 介護保険と地域包括ケアの比較から得られる教訓

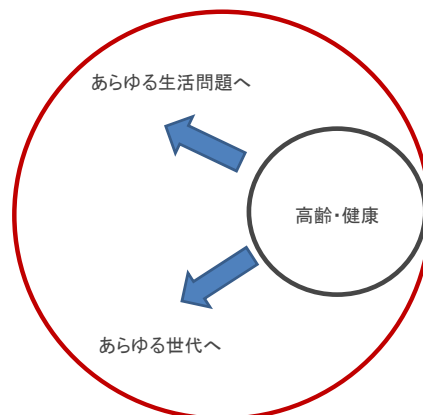
介護保険政策

- 人びとが抱える深刻かつ普遍的なニーズを的確に捉えた
- 財源の確保を含め周到に準備が行われた

地域包括ケア政策

- 生活モデルの理論がいう、歴史的な生活モデル化の趨勢には合致していたが、人びとが抱える普遍的なニーズを捉える形で政策化できなかったため、停滞的にならざるを得なかった。
- 地域包括ケア政策を介護保険政策の後継政策として立ち上げた事自体が正しくなかったかもしれない。

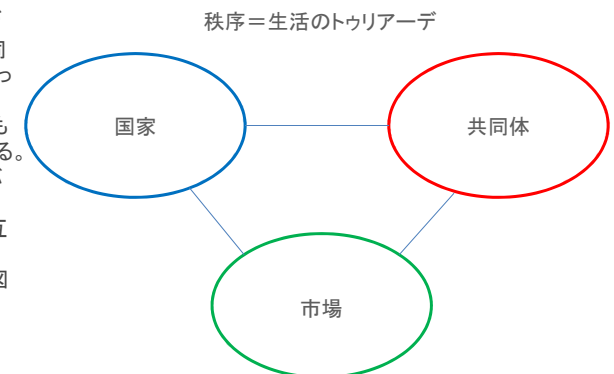
共生社会論がもつ普遍的視野は政策として筋がよい。あとは、普遍性のあるニーズを的確に捉える工夫。



4) 国家・共同体・市場の弁証法的関係性

秩序＝生活のトゥリアーデ

- 自由な秩序は国家・共同体・市場のバランスによって成立しうる(井上達夫)
- 生活基盤を保障するのも国家・共同体・市場である。生活保障をどのようなバランスで構築するかは、社会秩序のあり方と相互作用関係にある。
- 自助-互助-公助図式は恣意的

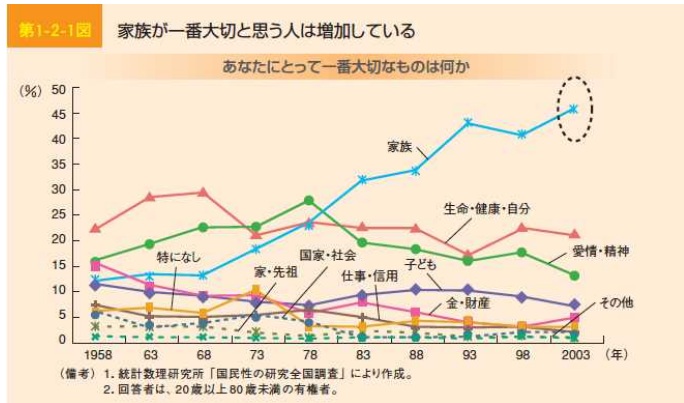


戦後日本の秩序の特徴

- 伝統的に国家が弱く共同体が強い(「権力なき権威」by ヘイリー)
- 伝統的な地域共同体は解体傾向だが、中間的共同体の権威への指向性は残っている
- 国家に期待されてきたのは個人権の尊重(擁護)だが、浸透が弱く、基本的人権や個人の生存権への疑念が存在する社会となっている

家族にかかっている過剰な負荷

家族に必要なのは負荷を軽減する政策
過去とは比べ物にならないほど負荷がかかっている。
親子の会話も年々増えている。



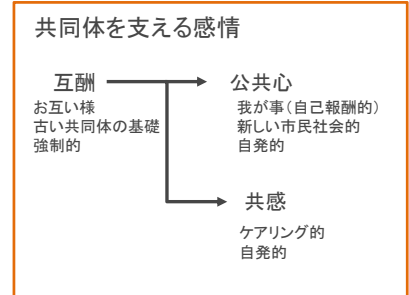
弱体化する地域共同体を再建するには

古い地域共同体は解体傾向

- 市場における経済活動の利益 > 共同体内での活動の利益である限り解体の方向性は変わらない(道徳的言説によって回復させることは不可能)
- 古い共同体の存続の条件である経済的メリットの供与も断ち切れつつある(農協・漁業権・交付金...)
- 日本では古い共同体については最後の解体過程に入っている

個人権の尊重による共同体の再構築

- 従来のメリットとは異なる共同体的価値を創造することが必須
- 互酬による地域共同体の再構築はある種の保守派が抱く非現実的な夢に過ぎない。公共心と共感による自発的な支え合いの構築が共同体を再興させる
- そのためには、個人権の尊重を国家が保障しなければならない
「中間共同体の専制を抑制するための個人権の尊重は、他者への配慮や責任感など人間的共同性の美質の放棄を意味しない。むしろ、より豊かなかたちの人間的共同性を享受するためにこそ個人権の尊重が必要であることを、日本の経験は示している。」(井上達夫『現代の貧困』岩波書店2001年, pp. 166)



生活保障政策に課せられる条件

生活保障政策に求められる条件

- 生活モデル化の潮流に適合しなければならない
- 秩序のトゥリアーデをバランスさせる
- 国家による個人権の尊重を強化する
- 人々の自発的参加を醸成する方法で地域共同体を再建する
- ナショナルミニマムの生存権に替わる方法でセーフティネットを完成させる
- 誰でも利用する可能性があることが社会が承認できる(普遍主義)

共生社会論

- 自助-互助-共助-公助という枠組みは恣意的で、秩序に関してナイーブである
- 地域共同体を利用しようとするばかりでそれを育てる視点を欠く(地域福祉学はいつもここで失敗している)
- 共感の重要性に対する理解が薄い
- セーフティネットを完成させることを最初から諦めている

▶上の条件を満たすような生活保障政策は存在するか？

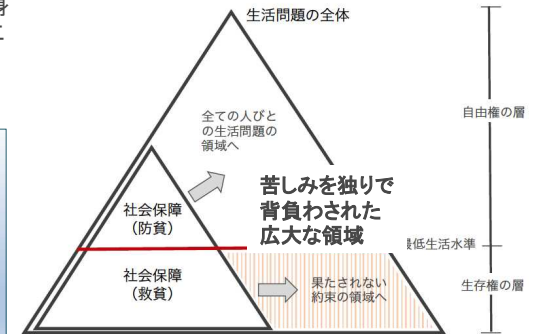
苦しみを独りで背負わされる苦しみを終わりにする

新しいセーフティネットのコンセプト

- 独力で対処できない生活困難を抱える全ての人が伴走者を得られる社会
- 現代の生活困難の中核は、生活手段の絶対的欠乏ではなく、自身が生きてゆく道筋を見つけ出すことができないこと
=powerlessness

ソーシャルワークの機能特性
生活支援にとっての壁となる生活特性を吸収・消化する生活モデルの特徴を帯びている点が重要

- 人生・生活に究極的目的が存在しないというQOL不可知性
- 人生・生活およびその困難の個別性・複雑性



生活モデルが可能にする完備された生活保障

生活モデルは生活の当たり前を正面から受け止めること

1. 個人の人生・生活(life)の目的はわからない
2. 個人の人生・生活は個別的で複雑である

- a. これらのことは、おそらく太古の昔から当たり前のことで、新たな発見でもなんでもないだろう。だが、20世紀、特に戦後先進諸国においては、この2点を正面から取り扱うことを回避する形で社会改良が進められてきた。社会保障、経済政策、労働政策、公衆衛生、医療…いずれもそのような20世紀的性質を帯びてきた。
- b. 社会改良の考慮から外されていたテーマである人生・生活の無目的性、個別性・複雑性が生活支援の表舞台に回帰しつつある。これが基本的観察。
- c. 人生・生活の無目的性、個別性・複雑性を正面から受けとめ、その豊かな状況の中で支援を行うのが**生活モデル**であり、生活モデルが表舞台に回帰する現象を**生活モデル化**という。

生活に目的がないとは QOLの部分的不可知性について

「青い鳥」に属する諸概念

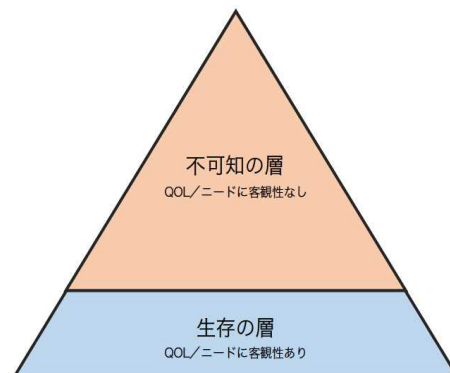
自己実現・尊厳・幸福など、人生の目的を指す言葉はあるが、それが実現する具体的な条件を誰も知らない。QOLは、生の肯定付きの幸福概念。

QOLの構造的特徴

- ① 生存がかかる状況では、QOLの向上に必要な条件には客観性がある
- ② 生存の条件が関与しない状況では、QOLの向上に必要な条件は、客観的にも主観的にも不可知

生活過程の探索的性質

人間は目的がなくとも生きることができる＝本来的に生への意欲をもつ



生活の個別性・複雑性とは 生活・生活問題のエコシステムの複雑性

エコシステムの複雑性

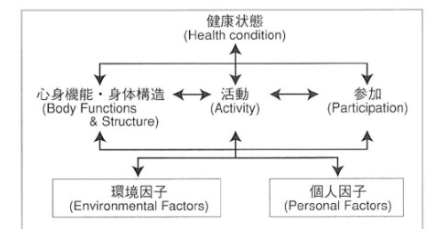
生活がどのくらい複雑かといえば「生態系くらい複雑」。本人および環境の無数の要素が互いに影響しあって、本人の生活状態が決まるとのこと。ICFはそれをモデル化した典型例。

生活に必要なスキルと生活困難

- ・ 暗黙化した高いスキルを必要とする(生活の複雑性の裏返し)
- ・ 必要なスキルが欠けたり、生活条件がスキルを超えて複雑化するとたんに生活困難に陥る
- ・ 航空機を飛ばすようなもの
- ・ ナイフエッジの上を歩くようなもの

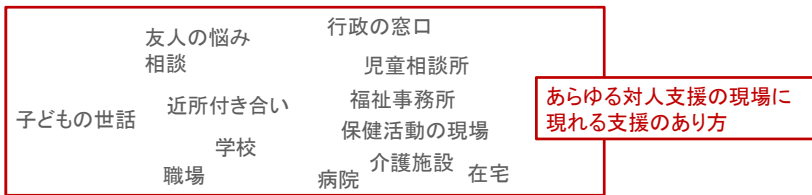
※なお生活モデルは障害学などでいう「社会モデル」とは異なる概念である。社会モデルは、基本的に本人の状況の責任を環境に求め、社会の側を変革することを目指す運動論的概念。

国際生活機能分類(ICF)2001



生活モデルとは

生活の特徴	対応する支援＝生活モデル
生活的価値の部分的不可知性 生活過程の探索的性質	寄り添い型／伴走型 非問題解決的 エンパワーメント、ストレングス視点
生活の個別性・複雑性	個別性・複雑性を前提とする支援 エコシステム的生活問題把握



生活支援の3類型

比較によって生活モデルを理解する

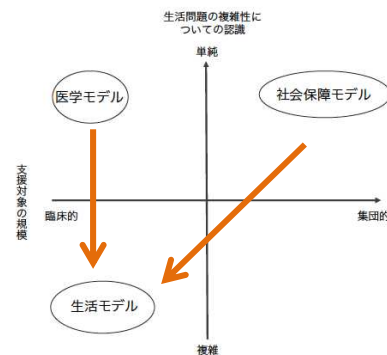
	生活モデル	医学モデル	社会保障モデル
QOLへの態度	QOL不可知	代理目標	代理目標
生活の複雑性への態度	エコシステムの	還元主義的	還元主義的
対象の大きさ	臨床的(個人)	臨床的(個人)	集团的
支援の焦点	エンパワーメント	効果	効率

生活モデル化の歴史的潮流

生活モデル化(1970s～)

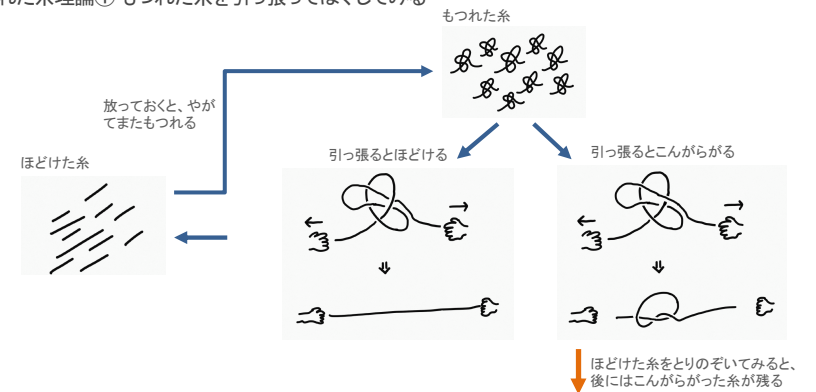
福祉・医療など生活支援に関わる全領域で支援の作法の重点に転換がみられる

- ソーシャルワーク**
70年代以降「生活モデル」「エコロジカルソーシャルワーク」「ジェネラリストソーシャルワーク」が主流化
- ヘルスケア**
障害者福祉・リハ領域から基本的な考え方が流入(80年代)し、90年代以降広まる。
- 社会福祉**
「貨幣的ニード」から「非貨幣的ニード」へ(普遍的福祉)
- 社会政策**
単純な貧困観から社会的排除へ



なぜ生活モデル化に歴史的必然性があるのか

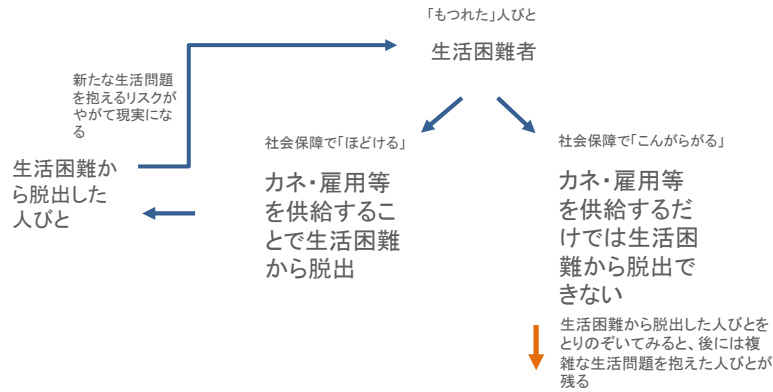
もつれた糸理論① もつれた糸を引っ張ってほぐしてみる



この過程を繰り返してゆくと、最終的に全ての糸がこんがらがった状態になる。



なぜ生活モデル化に歴史的必然性があるのか もつれた糸理論② 生活問題を社会保障でほぐしてみる



この過程を繰り返してゆくと、最終的に生活問題の性格が、単純に解決できる問題から「社会的排除」(≒個別的・複雑な生活問題)に移行する



なぜ生活モデル化に歴史的必然性があるのか リボン理論①

社会の成員全員が共通かつ単一の生活課題を抱えている場合

当該の生活課題を狙い撃ちする政策を社会全体に実施するため、政策効率は非常に高い。
(例)
・ 戦後の社会保障
・ 伝統的な公衆衛生政策

生活課題8								
生活課題7								
生活課題6								
生活課題5	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
生活課題4								
生活課題3								
生活課題2								
生活課題1								
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん

なぜ生活モデル化に歴史的必然性があるのか リボン理論②

個人によってある程度生活がばらけている場合

合理的な政府であれば、生活課題5→3→7の順で政策を実施するはず。この場合、政策が進展するにつれ、政策の限界効率は遞減する。

生活課題8								
生活課題7								✓
生活課題6								
生活課題5	✓	✓	✓	✓	✓			
生活課題4								
生活課題3						✓	✓	
生活課題2								
生活課題1								
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん

なぜ生活モデル化に歴史的必然性があるのか リボン理論③

個人ごとに抱えている生活課題が異なっている場合 (個別性最大)

生活課題別の対策が意味をなさない状況

生活課題8								✓
生活課題7								✓
生活課題6							✓	
生活課題5						✓		
生活課題4					✓			
生活課題3				✓				
生活課題2		✓						
生活課題1	✓							
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん

なぜ生活モデル化に歴史的必然性があるのか リボン理論④

個人ごとに抱えている生活課題の組み合わせが異なっている場合(複雑性最大)

生活課題別の対策の効果が小さいだけでなく、部分的な対策の実施が無効になる

さらに生活課題が複合している場合、生活課題別対策が課題領域をカバーしても当事者の問題が解決しない可能性も高い
←自殺実態白書2008

生活課題8				✓		✓			
生活課題7	✓								✓
生活課題6			✓	✓					
生活課題5		✓				✓			
生活課題4			✓					✓	
生活課題3						✓			✓
生活課題2		✓						✓	
生活課題1	✓					✓			
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん	

なぜ生活モデル化に歴史的必然性があるのか リボン理論⑤

1980年代以降世界的に主流化してきているソーシャルワークの支援観

- 特徴
- ① 個人の支援を基礎とする
 - ② 個人の複合的な問題をエコロジカルに把握する

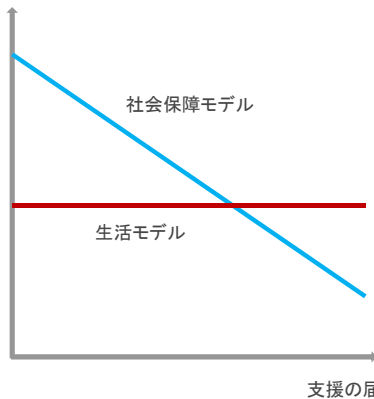
利用される資源もゴールも当事者によってさまざまなので従来行政が苦手としてきた支援のあり方(←全ての人に同じサービス、ナショナルミニマム)

生活問題を抱えた個人に個別に対応することが基本となるので、少なくとも職業サービスのみでカバーしようとするとなればかなりのコストがかかる

生活課題8									
生活課題7	✓								✓
生活課題6				✓		✓			
生活課題5		✓					✓		
生活課題4			✓					✓	
生活課題3						✓			✓
生活課題2		✓						✓	
生活課題1	✓					✓			
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん	

なぜ生活モデル化に歴史的必然性があるのか 生活支援の限界効率逓減理論

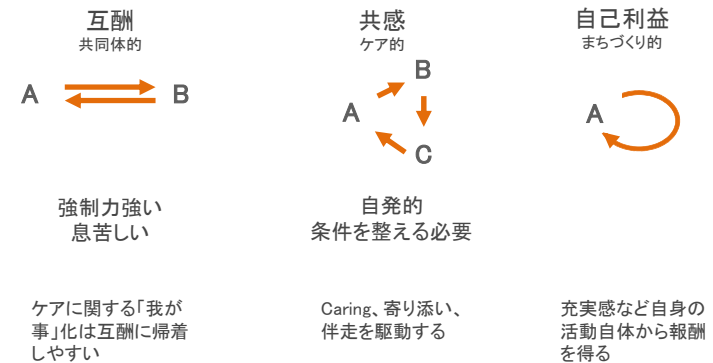
生活支援の限界効率



社会保障モデルに基づく支援を進めてゆくに連れ政策の限界効率は逓減し、やがて支援効率は、生活モデルを下回ると考えられる

「我が事」化が抱える困難

進化的生物学的観点からみた「支え合い」の前提となる感情の型

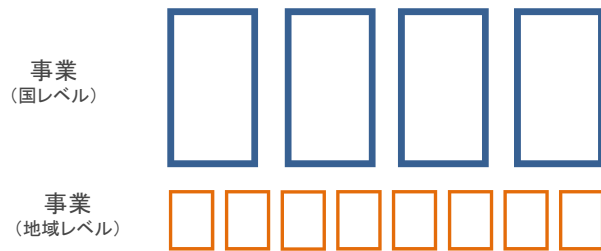


互酬による福祉推進は、都市を農村にしようとするのと同じで一般化するには無理がある

Cf. ドゥ・ヴァール『共感の時代へ』

地域福祉の限界

地域福祉のアプローチ

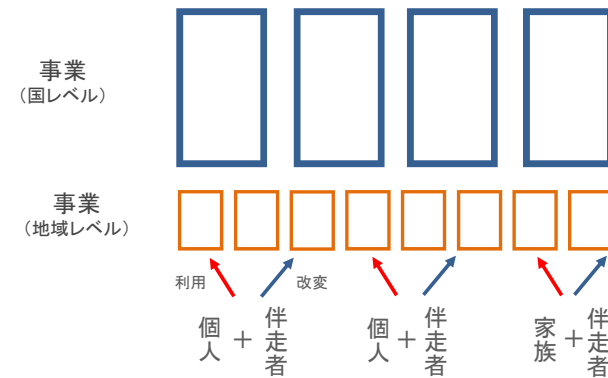


意義と限界

- 生活モデル化にとって必須のアプローチだが同時に限界も理解しておく必要がある
- 「我が事」化によって地域福祉を推進するには特に都市部では限界がある(都市の農村化が不可能なのと同じ)
- QOLの不可知性に由来する寄り添いの必要性を組み込んでいない。たとえば「消費者のニーズを無視した多品種少量生産」のようなもの。
- セーフティネットとしての機能を期待できない(「**縦のものを横にしても縦**」)

個人に対する伴走を基盤とした生活モデル

寄り添い／伴走からのアプローチ

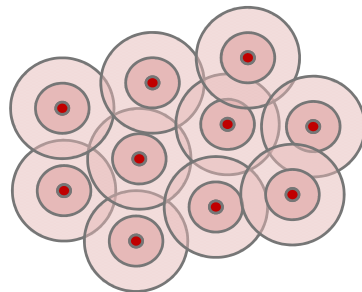


- ニーズを当事者から引き出してゆく伴走者による支援が必要
- 伴走／寄り添いと地域福祉の関係は目的-手段関係になる
- これではじめて縦のものが横になる
- システム上のボトルネック(最も稀少性が高いもの)が、伴走者であることはあきらか

ボトルネックを突破する

伴走／寄り添いに基いてセーフティネットを構築する

- 初等・中等教育でSWの初歩を教える
 - SOSが出せる学校空間
 - 伴走人材の苗床となる
- 広範な対人専門職に対してSW的素養を身につけさせる
- これに適合的な資格制度の再構築
 - SW資格をピラミッド型に再編成する必要
- 寄り添い・伴走に対する経済支援
 - 制度を作ってその中で伴走が起きるのを期待するのではなく、伴走者にカネをつける方法の開発
 - 制度は作法に従う



社会福祉士への期待を込めて

ソーシャルワークの素晴らしさを社会に伝えよう

伴走／寄り添いは本質的にアウトカム評価ができない。したがって小手先の評価指標や、アウトカム評価に馴染む領域で自分たちの存在価値を示そうとするよりも、まず伴走／寄り添いが、ニーズを抱えて生きている人びとを支えるものであるという共感を社会に醸成してほしい。そのための組織的努力がまだまだ足りないように思われる。

セーフティネットはソーシャルワークでしか張れない。本気で取り組んでほしい。

「誰も自殺に追い込まれない」や「苦しみを独りで背負わされる苦しみを終わりにしよう」を口先だけのスローガンに終わらせてはならない。社会福祉士のみさんが本気で取り組まなければ決してそのような社会は実現しない。本気を見せてほしい。

全ての人々がSOSを聞く作法を知る社会にしよう

全ての人々がセルフアドボカシーできる社会は、SOSを聞くスキルに溢れた社会。学校教育や社会教育の中で全ての人々がSWの初歩を学べる社会をめざしてほしい。

ソーシャルワークの先導者になろう

真の専門職とは、公共的存在であることを不断に社会に証明することによって名誉・社会的地位を獲得する職種のことである。資格の利益を守ることに汲々とするのではなく、ソーシャルワークの先導者、価値の守護者となることで公共性を証明してほしい。

さらなるコミュニケーションを希望される方へ

その際はメッセージを一言頂ければ、
「不審者」扱いになるリスクを回避で
きます。